

トレーニングハウスを活用し、 モリヤマメロン新規生産者を育成

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

JAおうみ富士(以下JA)と守山市は、今年度、「モリヤマメロン」のブランド維持のため、メロンの新規生産者を育成する目的で実習用のハウスを新設し、これを活用した「トレーニングハウス研修制度」をスタートされました。当課は研修制度が円滑に進み、新規生産者が確保されるよう、研修プログラムの内容や支援体制への助言を行うとともに、受講者に対し基本技術習得の支援を行いました。

【普及活動の内容】

研修プログラムについては、JAと運営方法・栽培計画・講義日程など検討を重ねるとともに、実践研修の場となるハウスの仕様や排水対策について助言しました。

一方、市とは、JAの研修制度を踏まえ、新規生産者の確保につながるよう設計段階から市と協議し、「メロン研修生支援補助事業(市がJA・農業者に補助金を交付)」の新設に向けた助言をしました。

25年度は5名が受講し、当課はメロンの生理生態や、管理作業などの基礎知識や基本技術の習得を支援し、ポイントとなる作業はメロン部会員が行うなど役割分担しました。また、役員の栽培ほ場や共同選果場での箱詰め作業見学など幅広い研修カリキュラムとしました。

5月に定植した苗は、受講者の管理により、7月下旬に無事収穫を迎えました。

9月の反省会では、研修生の習熟度を見極めるテストを実施したところ、平均91点と高得点を修められ、次年度以降の栽培開始に期待が寄せられました。



メロン部会役員による定植指導



普及指導員によるメロン摘果指導

【普及活動の成果】

研修生5名は、3か月の実践により基礎知識や基本技術をおおむね習得され、H26年は、2名がハウス3棟740㎡を新設、2名は既存施設5棟820㎡でメロン栽培に取り組まれることになりました。

このように、市、JAと普及職員の連携により、充実した育成制度が完成したことから、今後、このトレーニングを活用して新たにメロン栽培を志す人の定着・拡大を図ります。